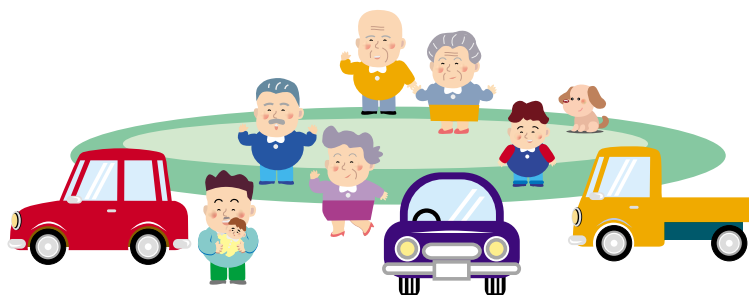


社会に貢献する軽自動車



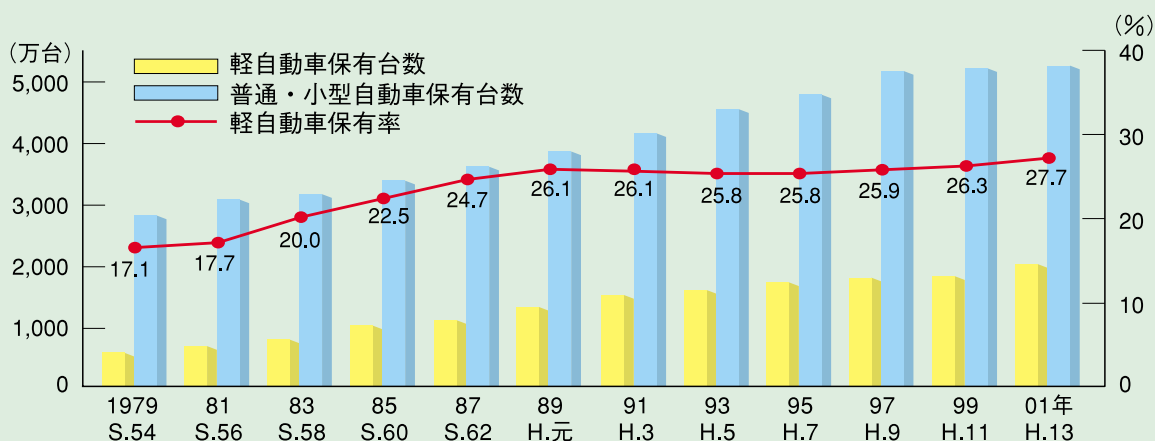
軽自動車は1949年（昭和24年）に規格が制定され、既に半世紀が経過しました。1960年代はモータリゼーションの牽引役として、1980年代以降はセカンドカーとして普及するなど「経済性」や「使いやすさ」から、その役割を果たしてきました。また1998年（平成10年）には衝突安全基準が普通・小型自動車と同一となり、その安全性が高く評価されています。

近年、環境保全の観点から小さな車が注目されるなかで、軽自動車は省資源・省エネルギー・省スペースに優れた車として社会に貢献しております。

- 地方で活躍する軽自動車** … 軽自動車は、とりわけ公共交通機関が不便な地方で代替交通手段として使用されており「日常生活の足」として活躍している。
- 生活に密着した軽自動車** … 軽自動車は、「通勤・通学」「買物・用足し」の移動手段、また小規模事業者の輸送手段として「生活に密着した」使われ方をしている。
- 環境にやさしい軽自動車** … 軽自動車は、車体や排気量が小さいため道路やスペースの有効活用とともに、省資源・省エネルギーにも貢献している。

◆軽自動車の保有台数は2000年（平成12年）に2,000万台に達した。自動車の総保有台数に占める軽自動車の割合は「4台に1台」と安定的に推移しており、日本の車社会のなかで重要な役割を果たしている。

自動車保有台数・軽自動車構成比の推移



*各年3月末現在

*資料：「自動車保有車両数」(財)自動車検査登録協会のデータ

編集・発行 (社)全国軽自動車協会連合会
スズキ株式会社・ダイハツ工業株式会社・富士重工業株式会社・
本田技研工業株式会社・マツダ株式会社・三菱自動車工業株式会社



地方で活躍する軽自動車



- ◆軽自動車は、人口10万人未満の市町村で約60%が保有されている。これらの地域では多くの軽自動車ユーザーが周辺の公共交通機関を不便であると感じており、ほとんどの世帯が2台以上の車を所有している。

軽自動車の普及率の高い県では鉄道営業キロ数が短く、また最寄りの駅までの距離も離れており、軽自動車が公共交通機関の代替手段として、日常生活に欠くことのできない存在となっている。

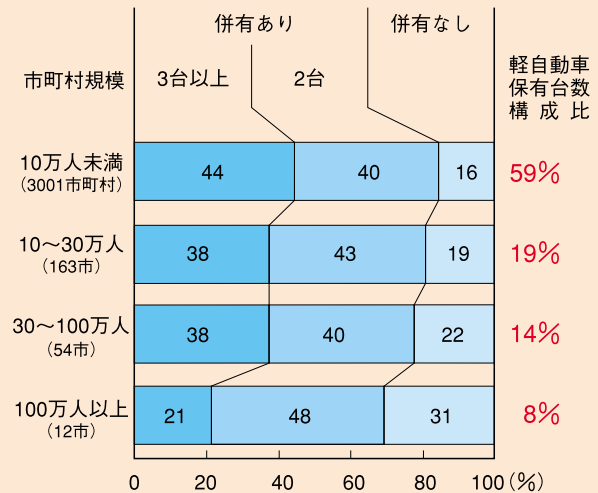
軽自動車の世帯当り普及台数

軽自動車普及上位	100世帯当り普及台数	軽自動車普及下位	100世帯当り普及台数
1 鳥取	89.2台	1 東京	9.5台
2 島根	85.3台	2 神奈川	15.7台
3 長野	82.7台	3 大阪	22.9台
4 佐賀	82.2台	4 埼玉	27.0台
5 山形	81.9台	5 北海道	27.2台
6 福井	77.2台	6 千葉	28.4台
7 徳島	74.3台	7 京都	34.5台
8 新潟	74.1台	8 兵庫	35.2台
9 岡山	73.5台	9 愛知	37.9台
10 宮崎	72.7台	10 福岡	44.3台
平均	78.1台	平均	24.8台

* 100世帯当り普及台数の全国平均は、41.7台

* 資料: 01年3月末現在、(社)全国軽自動車協会連合会調べ

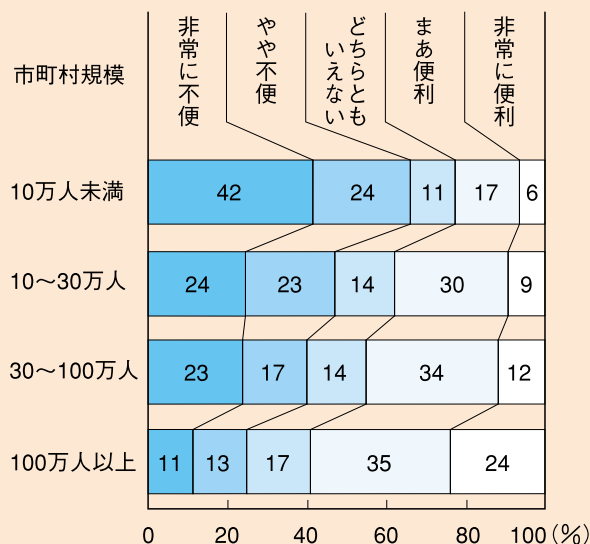
軽自動車ユーザーの併有状況



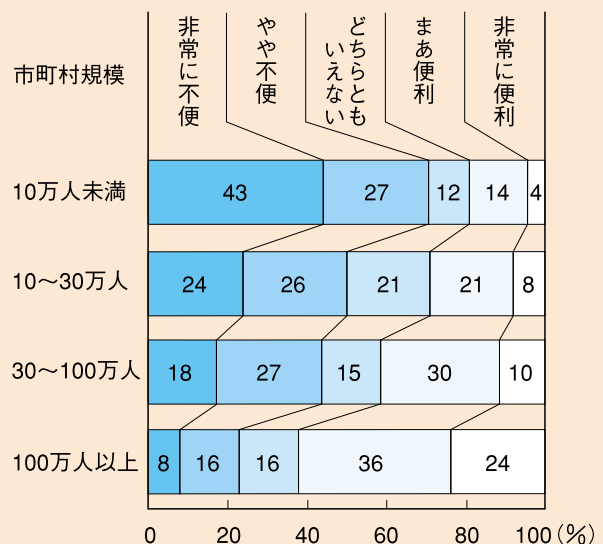
* ()は該当市町村数(00年国勢調査)。なお東京都の特別区は1市として人口100万人以上の市に含めた。

周辺の公共交通機関の利便性 (軽自動車ユーザー)

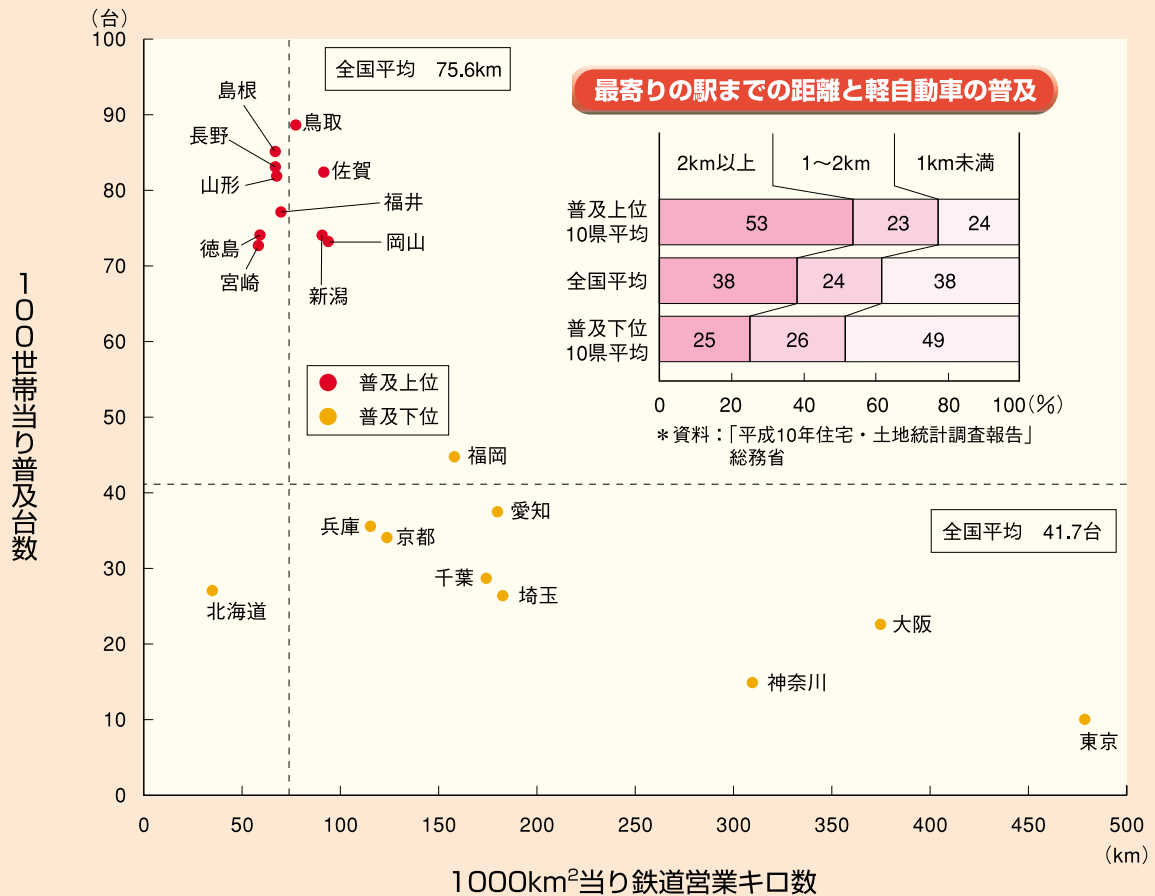
● 鉄道



● 乗合バス



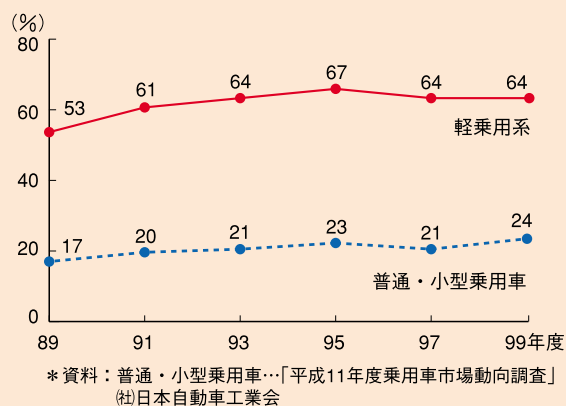
軽自動車の世帯当たり普及台数と鉄道営業キロ数の相関



* 資料：100世帯当たり普及台数…01年3月末現在、(社)全国軽自動車協会連合会調べ
1000km²当り鉄道営業キロ数…00年4月1日現在、地方運輸局調べ

- ◆軽乗用系ユーザーは3人に2人が女性で、この比率は普通・小型乗用車に比べて非常に高い。また女性ユーザーの80%以上が既婚女性である。
- ◆既婚女性の就業率の高い県では軽自動車が普及しており、公共交通機関の不便な地域で働く女性の日常生活の足として不可欠な移動手段となっている。

主運転者の女性比率の推移



軽自動車の普及と既婚女性の就業率

軽自動車普及上位	既婚女性就業率	軽自動車普及下位	既婚女性就業率
1 鳥取	64.7%	1 東京	44.5%
2 島根	63.6%	2 神奈川	41.8%
3 長野	61.0%	3 大阪	40.5%
4 佐賀	58.7%	4 埼玉	46.1%
5 山形	65.8%	5 北海道	44.5%
6 福井	66.5%	6 千葉	46.0%
7 徳島	55.0%	7 京都	47.4%
8 新潟	62.4%	8 兵庫	41.8%
9 岡山	53.9%	9 愛知	51.4%
10 宮崎	56.4%	10 福岡	45.6%
平均	60.3%	平均	44.6%

* 既婚女性就業率の全国平均は、49.4%
* 資料：「95年 国勢調査」総務省

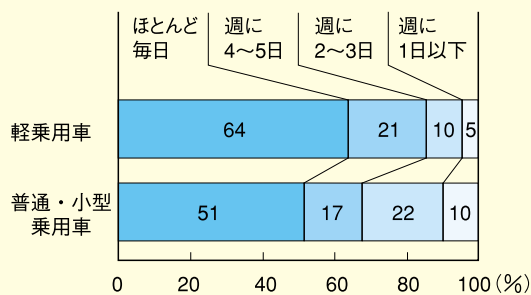


生活に密着した軽自動車



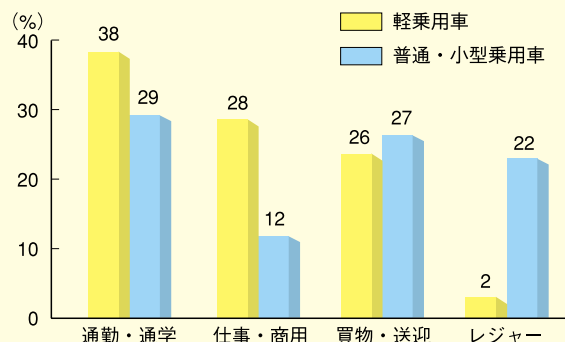
- ◆軽乗用車ユーザーの多くは、軽乗用車をほとんど毎日使用している。その主な用途は「通勤・通学」「仕事・商用」「買物・送迎」で「レジャー」は少なく、軽乗用車は生活に密着した使われ方をしている。
- ◆軽自動車の保有世帯では、複数の車を所有する比率が高く、併有車は普通・小型乗用車が多い。こうした世帯で、軽自動車はセカンドカーとして使用されており、棲み分けがなされている。

軽乗用車ユーザーの使用頻度

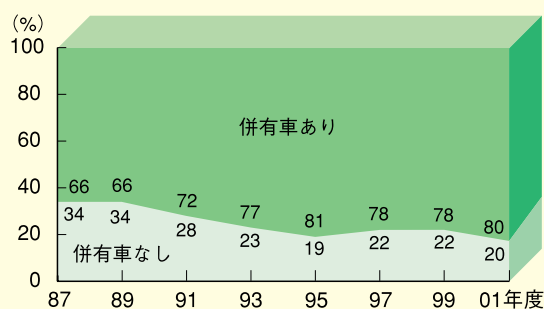


* 資料：「平成11年度乗用車市場動向調査」
(社)日本自動車工業会

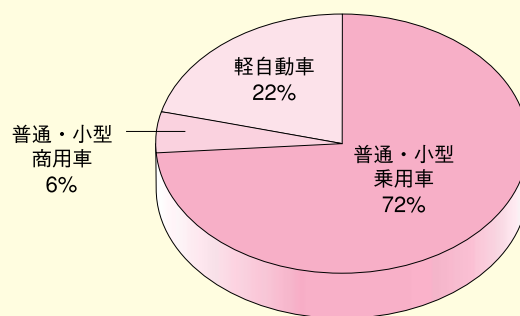
乗用車ユーザーの主な用途



軽乗用系ユーザーの併有車の有無



軽乗用系保有世帯での併有車の車種



- ◆軽自動車は、維持費の安さなどの「経済性」と、運転のしやすさなどの「使いやすさ」から選択されている。特に日本の道路の約84%は市町村道で、その平均幅員は3.6mと狭いため(※)、小回りのきく軽自動車が活躍している。

(※) 99年4月1日現在、「道路交通経済要覧 平成12年度版」(財道路経済研究所)

- ◆軽自動車は1998年(平成10年)、衝突安全基準の強化のため、規格(全長・全幅)の改定が行なわれた。軽自動車ユーザーは、この規格改定にともなう安全性の向上を高く評価している。

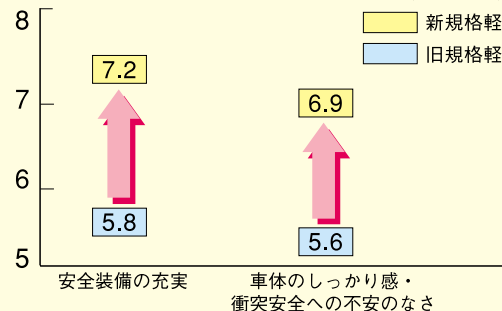
経済性・使いやすさからの選択理由

(複数回答 単位：%)

	経済性			使いやすさ				
	税金が安い	価格が安い	燃費が良い	狭い道で使いやすい	運転がしやすい	駐車車が容易	買物・用足に向いている	積み下ろしがしやすい
軽乗用系	87	51	45	61	58	39	49	—
軽キャブバン	71	62	34	64	36	30	—	71
軽トラック	60	50	41	66	37	25	—	69

軽乗用系ユーザーの安全性に対する評価

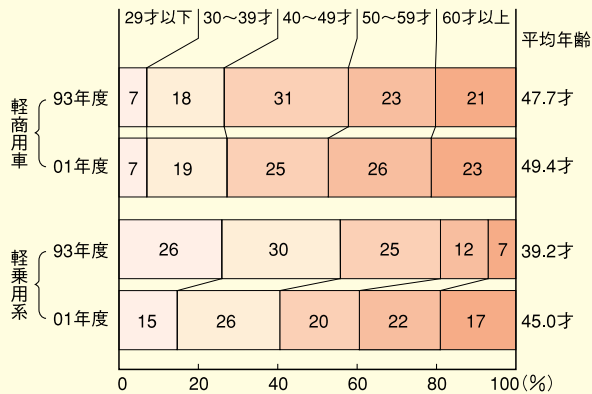
(10点満点)



* 資料：「平成11年度軽自動車使用実態調査」
(社)日本自動車工業会

- ◆ 少子高齢化が急速に進むなか、軽自動車ユーザーの高齢者比率も年々増加している。特に軽自動車の普及している地域では、65歳以上の高齢者のいる世帯比率が高い。高齢者にとってコンパクトで運転しやすい軽自動車の必要性は、ますます高まっている。

運転者の年齢



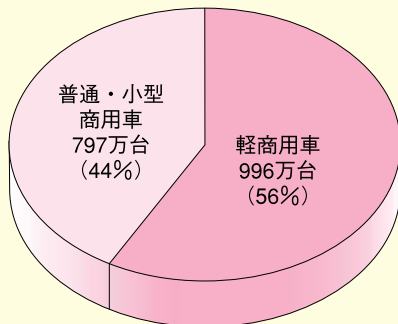
軽自動車の普及と高齢者のいる世帯比率

軽自動車普及上位		65歳以上世帯率	軽自動車普及下位		65歳以上世帯率
1	鳥取	42.9%	1	東京	22.2%
2	島根	45.6%	2	神奈川	21.1%
3	長野	39.8%	3	大阪	23.2%
4	佐賀	39.9%	4	埼玉	21.2%
5	山形	46.9%	5	北海道	26.5%
6	福井	40.9%	6	千葉	22.9%
7	徳島	38.2%	7	京都	28.4%
8	新潟	41.0%	8	兵庫	29.2%
9	岡山	35.1%	9	愛知	24.8%
10	宮崎	33.3%	10	福岡	28.3%
平均		39.7%	平均		24.0%

* 65歳以上世帯率の全国平均は、29.0%
* 資料: 「95年 国勢調査」総務省

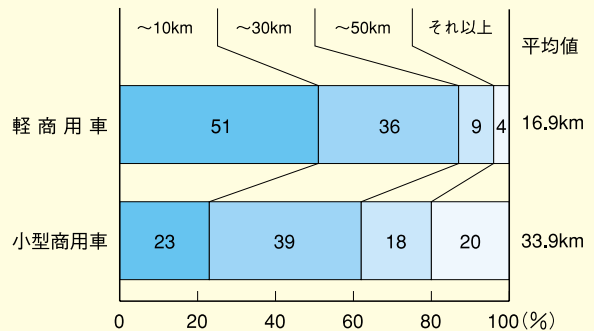
- ◆ 商用車の総保有台数の大半を占める軽商用車は、個人商店・町工場・農家などで活躍している。また、その用途は広く、「小口配送」「工場等への足」「農作業」など近距離での使用が多い。特に従業員が1〜4人という小規模事業所にとって軽商用車は必需品であり、仕事や商売に深く関わっている。

軽商用車と普通・小型商用車の保有比率



* 資料: 01年3月末現在、「自動車保有車両数」
(財)自動車検査登録協会

行動半径比較



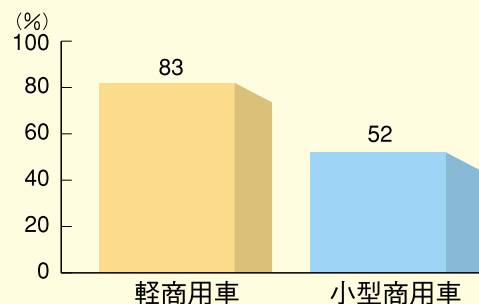
* 資料: 「平成10年度小型・軽トラック市場動向調査」
(社)日本自動車工業会

軽商用車の主な使い方

(複数回答 単位: %)

	小口配送	工場等への足	田畑への往復・農作物の運搬	営業活動
軽キャブバン	45	26	19	29
軽トラック	23	22	58	9

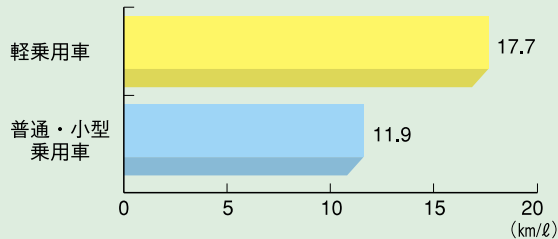
商用車ユーザーの小規模事業所の割合



* 資料: 「平成10年度小型・軽トラック市場動向調査」
(社)日本自動車工業会

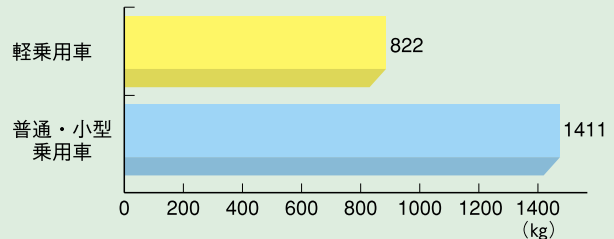
- ◆軽自動車は小排気量（660cc）で燃費が良く、また必要最小限の車体サイズ（全長3.4m、全幅1.48m）であることから、使用する原材料も少ない。近年、環境保全が重要なテーマとなっているが、軽自動車は省資源・省エネルギー・省スペースに優れた環境にやさしい車として社会に貢献している。

平均燃費比較（ＡＴ車）



* 資料：「自動車燃費一覧 平成13年3月」国土交通省

車両重量比較（ＡＴ車）



* 資料：「自動車燃費一覧 平成13年3月」（国土交通省）
に掲載された各車の車両重量中の中間値を平均したもの

- ◆アスファルト舗装道路の損傷度は自動車の軸荷重の4乗に比例することから、車両重量の軽い軽自動車は道路への負荷が極めて小さい。



* 資料：車両重量…「自動車燃費一覧 平成13年3月」（国土交通省）
に掲載された各車の車両重量中の中間値を平均したもの
：道路損傷度…軸荷重の4乗に比例する
（「アスファルト舗装要綱」(社)日本道路協会）

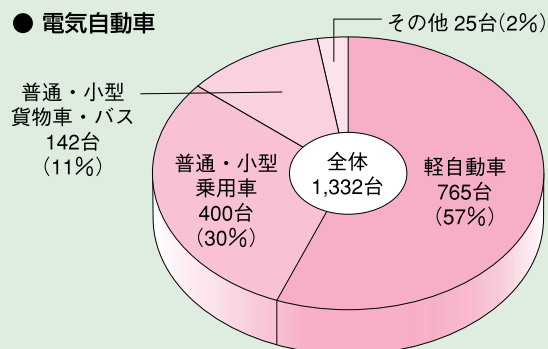
道路損傷度比較（ＡＴ車）

	軽乗用車	普通・小型乗用車
車両重量	822kg	1411kg
重量比	1	1.7
道路損傷度	1	8.4

- ◆環境負荷の少ない車の要請が高まるなか、軽自動車メーカーは電気自動車や天然ガス自動車を中心に低公害車の開発を進めている。特に電気自動車の総保有台数に占める軽自動車の割合は大きい。

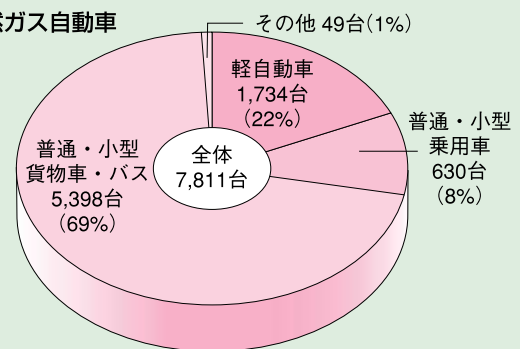
電気自動車・天然ガス自動車の保有比率

● 電気自動車



* 資料：01年3月末現在、(財)日本電動車両協会

● 天然ガス自動車



* 資料：01年3月末現在、(社)日本ガス協会

(参考)

* 本冊子においては、軽自動車を原則として次のように分類しています。

軽乗用系(軽乗用車・軽ボンネットバン)、軽商用系(軽キャブバン・軽トラック)

* 特に出典の記載がない図表の資料は「平成13年度軽自動車使用実態調査報告書」(社)日本自動車工業会のデータを用いています。

〈調査対象地域：全国(除沖縄)、回収数2,797サンプル〉